

SDGsレポート

～52期実績報告書～





SDGs宣言

鹿児島金属株式会社は持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)に賛同し、従業員が年齢や性別など関係なく心身ともに健康にいきいきと働き続けられる環境を整備し、また、資格の取得を支援することで従業員一人一人のスキルアップを促進しています。

さらに、生産における不良率を低減させ、環境への配慮にも力を入れています。今後も社員一人一人が、お客様のご期待以上に応えるために日々努力を重ね、確かな知識と卓越した技術を通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

代表挨拶



トップメッセージ


鹿児島金属サステナビリティ 実績報告書

代表取締役社長 倉津 孝夫

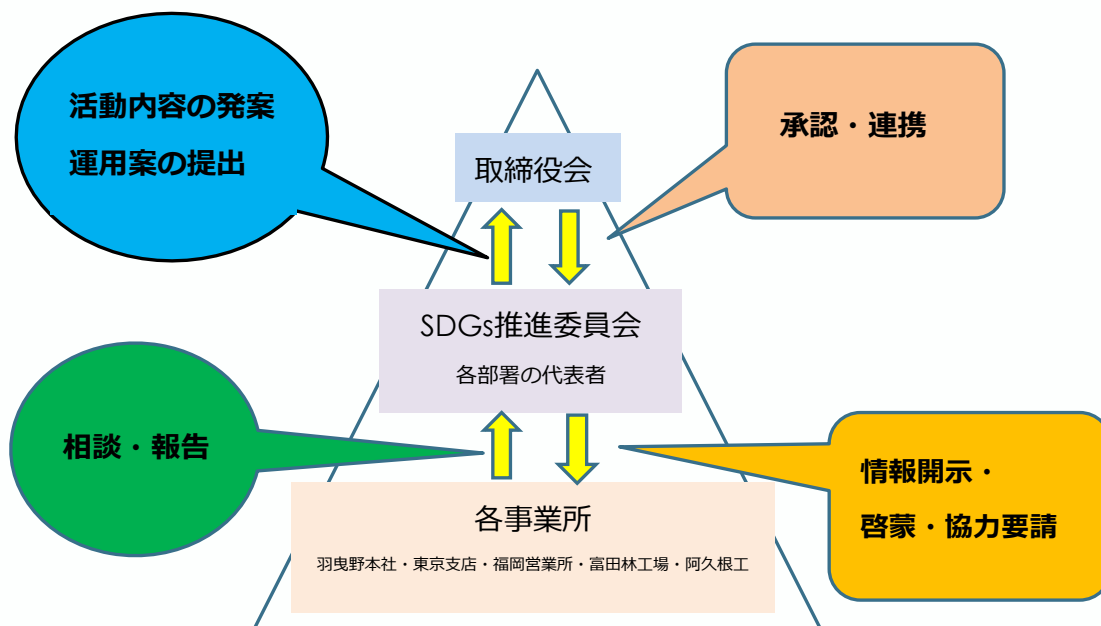
昨年5月より本格的にSDGs推進をスタートさせ、社内委員会を中心に理解と実践を深めた結果、レポートに纏めさせて頂いた通り、一定の成果をあげることが出来ました。

当社のコア技術である【冷間圧造工法】は、材料ロスの極めて少ない環境配慮型の工法です。

今後も冷間圧造の優位性を活かし、企業の成長とそれに伴う環境対策、社会貢献活動をSDGsに添って体系化し、SDGsが掲げる社会課題解決に積極的に取り組んで参ります。



SDGs推進体制



重点課題とするターゲット

当社は冷間圧造メーカーとして半世紀以上モノづくりに携わってきました。時代が移るにつれ、商品の品質だけではなく、環境面に於いても企業努力が重要になっております。

世界中にある製造メーカーの一員として、その責任を全うすべく当社では下記ターゲットを重点的に取り組んで参ります。



SDGsへの取組

当社は2022年に各事業所より様々な部署から構成される人材を選任し、SDGs推進委員会を発足しました。

これからも製造メーカーの一員として企業を存続・成長させる為、SDGsが掲げる社会的問題を微力ながらに貢献して参ります。



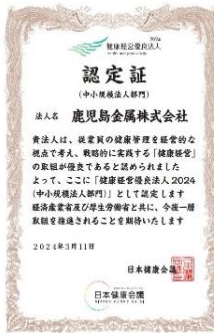
2024年までの進捗報告

KAW会議の開催！

製造メーカーである当社にとって、女性の従業員比率は決して高くありません。加えて、女性管理職比率の低迷にも問題を抱えております。ダイバーシティや女性活躍を推進する為に、当社では全事業所の女性社員だけを対象とした会議を実施しました。国際会議のWAW！会議を倣ってKAW会議(Kagashima Assemble for Women)と命名し、役員を交えた意見交換や業務改善、自社紹介を通じたキャリアアップの機会提供など、女性が経営参画できる環境づくりを進めてきました。10月と4月の年2回、テーマを変えながらKAW会議を実施しております。回数を重ねることでより良い、有意義な機会になると実感します。女性の社会進出、所得格差の是正に貢献できるように社内環境や業務平準化、安全面の強化に努め、活躍の場を提供できるよう推進して参ります。



健康経営優良法人(中小企業)に認定されました！



- 長時間労働への対応
- 検診受信率100%維持
- 二次健康診断実施
- ストレスチェック
- 受動喫煙対策
- 再検査費用の会社負担(条件あり)等...

有給取得率の改善

当社では有給取得義務化(5日間)を含む有給取得率の改善に取り組んでおります。2030年までに有給給付日数の60%以上を取得する目標を立てております。

昨年と同じことをしては目標には届きません。当社では2Sの徹底、生産性の向上、マニュアル化、多能工化を推進し目標達成を推進します。

前年と比較し、114日増加しており13.7%向上しております。

社会福祉法人との提携

当社は大阪府と鹿児島県に工場を有し、その地域にある社会福祉法人様へ梱包作業や商品の袋詰、ボルトとナットの結合などの軽作業をご協力頂いております。

都市部への人口集中や労働力不足など地域が抱える問題に対して、微力ながらに貢献し続けます。

また、社内で収集している空き缶を持ち帰って頂き、リサイクル化を助力しています。更に社会福祉法人様で作られている洋菓子を社内販売し、従業員がひと息つくお供に好評です。



ウォークアンド クリーンへ参加



本社を置く羽曳野市では周辺に古墳が散見され、2019年に大阪府では初めての世界遺産に登録されました。

「百舌鳥・古市古墳群」

それらの保全活動を羽曳野市や藤井寺市、もずふる隊などを中心に実施されており、地元企業の一員として清掃活動に参加しました。

約5Kmのコースを市職員さんの古墳ガイド付きで周ります。

天候にも恵まれ、普段通らない道の散策や古墳の種類・伝記など楽しみながら参加させて頂きました。

技術開発品への挑戦！

金属部品メーカーにとって設備や人、経験など非常に重要となりますが、技術力の継続的な向上も必須です。詳細な図面やサンプル等は社外秘になりますが、これまでの当たり前をひっくり返すような加工に挑戦し、再現性や量産性に繋げて参ります。必要であった工程の削減や使用材料ロスの削減により、エネルギー・人員・時間を省いて競争力のあるご提案が可能となります。

2030年までに4件以上の開発計画を目標とし、現在2件を達成しております。

新たな取組を追加

① ペットボトルキャップ回収

- リサイクルの促進
- 発展途上国への医療支援
- リサイクル過程での雇用創出
- 二酸化炭素の削減



② 使用済みカイロ回収

- 川や海の水質浄化
- 土壌改良
- 消臭・除湿



③ My箸、Myコップ持参

- 環境負荷の低減
- 森林の保持
- 購入費・廃棄物の削減



④ ラベルレス飲料商品へ切替

- プラスチック使用量削減
- 製造・廃棄エネルギー量の削減
- 製造・廃棄CO2排出量の削減



⑤ 使用済み切手の回収

- 売却益で発展途上国への医療支援
- 現地医療従事者に学資援助



⑥ グリーンエネルギーの購入

- 関西圏の事業所で使用する電力の10%をグリーン電力へ切り替える



⑦ こども支援

- 従業員一人当たり¥500/年を親睦会費より捻出し、その資金を寄付する
- 母子家庭や両親のいない子供達へプレゼント

